



やまはなサンパークの桜

平松記念病院
診療部長 小 熊 士 郎

●感染制御

穏やかな気候となり、つい浮かれがちになりやすい陽気ですが、この頃の病院は、専門分野の診療だけでなく、色々な付帯条件が必要になっております。リスク、梅毒、院内感染、栄養などの対策など、さらには個人情報という一番難しい問題があり、話をしていると、話しかける言葉に窮し、口がかたくなり無口になりがちです。感染に関しても、かつてはMRSAなど院内感染の対策が必要でしたが、最近は院内だけの対策では対応できず、地域、さらには地球規模での対策の必要性が論じられています。

今は、簡単に海外旅行にも行け、外国からの旅行者も増えており、触れ合う範囲が広がり、飛行機で簡単に新型コロナウイルスが運ばれてくる時代となっております。新聞紙上では、新型鳥ウイルスの出現、その対策、さらには旭川などでスズメが原因不明で死んでいるとか、訳の分からぬことが多く、その対策を考えたりと大変な時代となっております。また、この頃は、院内感染という言葉に替わって「感染制御」という言葉が使われています。単なる院内感染対策では対応できず、地域を含めた広い範囲での感染対策の必要性が叫ばれており、そのために感染制御という言葉が使用されております。

感染制御だけでなく、院内制御？の必要性も出てくるかも知れません。とにかく、より良い病院となることに邁進しております。

平松記念病院

ききるの

ネットワーク

複雑で多様化する地域の医療ニーズに応えるためには、さまざまな医療機関同士の連携が必要になってきています。今回は新たに当院と特に関係の深い病院や診療所を紹介するコーナーを新設しました。第1回目は地域で活躍する精神科のクリニックに登場していただきます。

尾森先生は2003年に約1年間、平松記念病院で勤務された後、札幌駅前にクリニックを開業されました。その後も相互に患者様の紹介や検査の依頼などの連携を行っています。

病診連携 その1

札幌中央メンタルクリニック

〒064-0004 札幌市中央区北4条西3丁目1番地
札幌駅前合同ビル9F
TEL 011-200-8088 FAX 011-200-8185



院長
尾森 伸行

- ・診療科目 心療内科／精神科
- ・診療時間 月・水／午前9:00～午後7:00
火・金／午前9:00～午後5:00
(昼休み／午後1:00～午後3:00)
木・土／午前9:00～午後1:00



◆メンタルクリニックを開業して思うこと◆

2004年4月に札幌駅前のビルに心療内科・精神科を標榜する診療所を開業して2年が経過しました。平松記念病院には開業前の1年間在籍させていただき、その節は医局の先生方ならびに看護師さん、精神保健福祉士さん、薬剤師さんほか様々なスタッフに大変お世話になりました。この場を借りて改めてお礼を申し上げます。

さて、当クリニックでは、2人の医療事務スタッフと仕事をしています。仕事とは、すなわち外来診療と同じ意味になります。患者さんのお話を伺いながらカルテを書き、必要な診断書や書類も記載しますので、患者さんが診察室から出ていくとすぐに次の患者様を呼びます。初診では1人につき35分程度時間をかけますが、再診になりますと7分から10分程でしょうか、特に悩んでいる時はもっと短くなってしまいます。昼休みは大体1時間半とれますが、あとは絶え間なく診察しています。昼食後は疲れていて何もできないので、ただ体を横にして過ごします。事務スタッフ(美人)と話しをする時間はほとんどありません。すこし孤独な世界です。単純な外来通院だけで治療が完結できる患者さんであれば、予約制なので待ち時間が短くてすむことや通院の利便性から当クリニックに通院する利点を見出すことができます。しかし、医療の理念に照らすと病院よりクリニックが優れている点は見当たりません。何人もの精神科医、看護師、また、精神保健福祉士や心理士もそろっていてチームワークで臨める病院の治療環境はクリニックより圧倒的に優れています。つい最近もクリニック診療の限界を感じさせる、非常に残念な出来事がありました。私がおよそ10年間、主治医をしていた統合失調症の男性患者さんです。その方は本当に努力家で、なおかつユーモア精神も優れている方で、これまで大変な苦勞をされてきましたが、本人の努力や周囲のサポートで何とか乗り越えてきた方でした。今だから分かるのですが、その時、本当は入院して濃厚な治療が行われるべきでした。でも私はその危うい兆候に気づくことが出来ませんでした。クリニックに特有な忙しさ、主治医の余裕のなさをその患者さんは感じ取っていたかも知れません。そのため、以前であれば話していた深い苦悩を遠慮して口にできなかったかも知れません。本当に具合の悪いときには、極まれに電話をかけてくれる方でした。しかし、それもありませんでした。もし、通院している医療機関の外来に顔見知りの看護師や精神保健福祉士がいたら、主治医に相談できなくてもその人に言うことができていたかも知れません。もし、通院している医療機関が病院であったならば、具合が悪くなれば入院すればなんとかなると思えたかも知れません。待合が大きくていろいろな患者さんや関係者がいれば誰かが困っている状態に気づいて主治医や家族に教えてくれていたかも知れません。

悔やんでも時間を巻き戻すことは出来ませんが、クリニック診療を続けていくにあたり、徹底的に思慮深くあろうと肝に銘じる次第です。



ボチの おじゃまします!

第5回 臨床心理課編



やあ〜ボチだよ!第5回目は
臨床心理課におじゃまします。
今回案内してくれるのは
「Ms.シンリーちゃん」と
「パウムくん」です。
お願いします。

では、わたし
シンリーちゃんが
ご案内します。



心理士ってどんな人?



心理士というとまだまだ誤解や偏見があるようで、親切な助言をしてくれる人というような理解から、「黙って座ればピタリとあたる」といった超能力的な期待までいろいろな思い込みがあるようです。初めてお会いした方から「心理士は心が読めるんでしょ?」とか「透視されてそう。」などと言われることがありますが、そのようなことは一切出来ません。心理士は臨床心理学の理論と技術に基づいて、悩みや困りごとを持つ方が問題を解決していただけるよう、専門的な援助を行っております。具体的には心理検査・心理療法(カウンセリング)などが挙げられます。



心理士は何人いるの?



当院では現在、4名の心理士が常勤しております。心理検査やカウンセリングなどの業務の他にはデイケアやナイトケアでのプログラム担当などを行っております。



心理検査ってどんなことするの?



心理検査や心理テストと聞くと、よく雑誌やTVで取り上げられているようなゲーム感覚の心理テストを思い浮かべる人が多いかもしれませんが、臨床の場面で我々が扱う心理検査というものはそういったものとは少々異なるものです。検査には質問に「はい」「いいえ」で答えるものから絵を描いていただくものまで多種多様です。自分の性格や物事への考え方、捉え方の特徴を客観的に知ることで、今後適切な治療をしていくことに役立ったり、職場の同僚や友人、何よりも自分自身と上手に付き合っていくことの手がかりとなったり、より安心して生活していく上でのヒントとなるかもしれません。日ごろの悩みや苦勞を少しでも軽くする手がかりとなればと思っております。



カウンセリングってどんなことするの?



最近ではかつらや化粧品のセールスにおいても「〇〇カウンセラーが相談に乗ります」など、カウンセリングという言葉が広く使われ、カウンセリングという言葉は世間一般でポピュラーとなっています。カウンセリングというと多くの人が、相談すればすぐさまカウンセラーから相談者に具体的なアドバイスや答えが返ってくるのだと思うかもしれませんが、しかし、臨床場面におけるカウンセリングとはそういった性質のものではなく、相談者がカウンセラーと色々な悩みや困ったことについての気持ちを話し合い、時間をかけ、整理していくものなのです。



<臨床心理課より一言>

心理検査やカウンセリングを受けてみたいという方はまず担当医にご相談ください。担当医に治療上必要であると判断されると受けていただくこととなります。少しでもお役に立てるよう努力していきたいと思っております。



第1回

院内研究 発表会



宗院長の総評です



作業療法士からの発表。テーマは「OTの役割と当院における取り組み」



薬局からの発表。テーマは「当院における入院患者様他科処方薬チェックの取り組み」



質疑応答の様子です

去る、3月13日(月)「第1回平松記念病院・院内研究発表会」が行われました。今回は初めての試みということもあって、研究発表会と言っても「研究報告」という主旨ではなく、院内の活動や先進的な取り組みの「実践報告」という形式を用いました。看護・薬局・作業療法・デイケアの部署から計4題の発表があり、その後は活発な質疑応答が行われました。普段の実践を文章や図式にまとめ、スライド等を使用して大勢の前で発表するという機会は、聞く側は勿論のこと、発表する側にとっても大変貴重な体験となります。今後は、このような発表会を更に盛り上げ、当院での診療やケアに役立てていきたいと考えています。

行事のお知らせ

今年もまた8月に平松記念病院「夏祭り&盆踊り大会」を開催する予定です。

昨年以上の盛況を願って、昼は出店やイベント、夜は盆踊りと花火など、地域の皆様も気軽に参加できるような楽しい企画を考えたいと思います。日程などの詳細をお知りになりたい方は、7月に入りましたら、当院代表電話までお問い合わせ下さい。

お問い合わせ：011-561-0708



理念

適切な精神科医療・保健・福祉をめざし、次の二つの柱を基礎に据えます。

1. 精神障害者の医療および保護を行い、自立のために社会復帰および社会的経済活動への支援をします。
2. その障害の予防に取り組み、市民の精神保健の向上をめざし、地域に根ざした病院を目指します。

医療法人社団 平松記念病院

編集後記



年度も変わり、桜の季節も終わりました。そして、広報誌第7号が無事に発行されました。今後、益々良いものを作っていくと思えます。精一杯がんばります。これからもご協力などを宜しくお願い致します。山田



広報委員になって1年、四季の変化を繰り返しながら、SOUちゃんとボチや各部署のキャラクターを描いてきましたが、早いようであったという間の1年だったように感じます。今年度はどんなキャラが出てくるのか、そしてどんな1年になるのか、その変化を楽しんでいきたいと思っています。嶋田

発行人 平松記念病院 広報委員会 発行日 2006年5月25日
〒064-8536 札幌市中央区南22条西14丁目
ホームページ: <http://www.hiramatu-mhp.or.jp>
E-mail: webmaster@hiramatu-mhp.or.jp
TEL: (011)561-0708 FAX: (011)552-5710